

# デュッセルドルフ案内

掲載されている情報については、総領事館が内容を保証するものでも、利用を推奨するものでもありません。また、これらの情報により生じたいかなる損害にも一切保証いたしかねますので、予めご了承願います。

1. 地理・気候
2. 市内名所案内
  - (1) 市中心部
  - (2) 旧市街(アルトシュタット)
  - (3) ベンラート城(シュロス・ベンラート)
  - (4) 美術館・博物館
3. デュッセルドルフの催物・伝統行事
4. 日本人コミュニティー
5. エンターテイメント
6. 近郊都市

## 1. 地理・気候

デュッセルドルフ市は、ノルトライン=ヴェストファーレン州(Nordrhein-Westfalen)西部、北緯51度14分(サハリン中央部とほぼ同緯度)、東経6度47分に位置し、ライン川右岸を中心に両側に広がっています。市街地は南北約25km、東西約14kmにわたり、総面積は217km<sup>2</sup>です。

気候は、ライン川の影響もあり、北部ドイツまたは南部ドイツに比べて年平均気温10℃と比較的温暖です。夏は例年短く、それほど暑くありませんが、時に30℃を越えることもあります。冬は市内で-10℃近くなることもあります。積雪は珍しいです。湿度は他のライン川沿いの都市と同様比較的高く、夏は70%、冬は80%に達します。

## 2. 市内名所案内

### (1)市中心部

#### ●インマーマン通り(Immermannstr.)

駅近くのこの通りには日本国総領事館や日本商工会議所、日本クラブを始め、日本企業のオフィスや日本の商品を扱う店が多数並んでいます。日本食レストランはインマーマン通りに加え、一本隣のクロスター通りにも数多く集まっています。

#### ●シャドー通り(Schadowstr.)

カジュアルなブティックや庶民的なデパートが並ぶこの通りは、地元の人々が買い物を楽しむ繁華街で、通りの北側には市立劇場や、**ホーフガルテン(Hofgarten)**が広がります。

**ホーフガルテン**は、かつての宮廷の狩場であった公園で、約2万6000平方メートルの広大な敷地には、池や花壇、博物館などが点在し、市民の憩いの場となっています。

また、園内に位置する**イエーガーホフ(Jägerhof)**は、18世紀半ばにつくられた伯爵の狩猟用の館で、ヨハン・ヨーゼフ・クーベンが設計したバロック様式の建物です。第2次世界大戦中に大きく被害を受けましたが、現在はゲーテ博物館として利用されています。

### ●ケーニヒスアレー(Königsallee)・王様通り、愛称ケー(Kö)

長さ1kmのこの通りで、高級ブティックのショーウィンドウを覗いたり、木陰のテラスから、道行く人々のお洒落な装いを眺めたりするのは楽しいもの。この街が「小パリ」と呼ばれる発端となった通りだけあり、マロニエの並木道に、きらびやかなショッピング・モールや有名ブランド店が立ち並ぶケーはドイツで最も華やかな通りの一つです。

この見どころの一つが、**トリトーンの泉(Tritonenbrunnen)**です。1902年にデュッセルドルフ環境美化協会の提案により作られ、ネオバロック風のトリトンの群像、半身半魚トリトーンはギリシア神話に想を得ています。

### (2)旧市街(アルトシュタット)

古い石畳や小道が歴史を感じさせます。ずらりと軒を連ねる居酒屋、賑やかな笑い声の絶えないビアホール、レストラン、バーは、その数およそ260軒あり、特にその中心を走る**ボルカー通り(Bolkerstraße)**は「世界で一番長いカウンター」と呼ばれています。

### ●旧市庁舎(Rathaus)

トュスマンがJ. パスカリーニの設計にならい、16世紀後半に完成させた旧市街のシンボルには、後期ゴシック様式(1300~1500年)とルネッサンス初期のスタイルが取り入れられています。1945年までの2つの大戦で大きな被害を受けましたが、1960年に修復されました。現在も市のセレモニーなどはここで行われます。また、市庁舎の前には高さ4m、青銅でできている選帝侯**ヤン・ヴェレムの像(Jan Wellem)**が立っています。

ヤン・ヴェレムとは1679年~1716年にこの辺りを統治していたヨハン・ヴィルヘルム選定候のことで、市民から親しみをこめてこう呼ばれていました。ヤン・ヴェレムは非常に市民から人気を集めた選定候で、この像も彼の生存中につくられたものです。2度目の妻が、フィレンツェの名家・メディチ家の出身であったこともあり、オランダ、イタリア、フランスなどの多くの絵画を収集し、彼の宮廷には優れた音楽家、画家、建築家が集い、デュッセルドルフは芸術の都となりました。

ヤン・ヴェレムは夕方になると好んで旧市街に出かけ、市民と一緒に大いに飲み、この地方の方言で歓談しました。また彼の治世下では、オペラハウスの設立、街灯の設置、新聞の定期発行など都市としての機能が整えられました。

### ●ハインリッヒ・ハイネの生家

ドイツを代表する叙情詩人として、また、自由を求めて生涯戦い抜いた行動的な芸術家として世界中に多くの愛読者を持つハイネの生家もデュッセルドルフにあります。1797年ユダヤ系商人の両親の元、この家でドイツ文学の異才、ハイネが産声をあげました。

### ●シュロストウルム(Schlossturm)

ライン川に向かって歩いて行くと、川沿いにあるのがシュロストウルム。起源は14世紀にベルク公によって建てられた城に発し、今から200年前は当時の伯爵の城として使われていましたが、第二次世界大戦の折に全焼し、1950年に塔のみ改築されました。現在は船舶博物館として利用されています。

### ●聖ランベルトウス教会(St. Lambertus Kirche)

バジリカ(中廊が側廊より高い教会)で有名な教会。12,3世紀頃、デュッセルドルフ市の誕生と同じ頃に建てられたと言われる市内で最も古い教会で、外見は14世紀の終わり頃の様式で質素なスタイルのレンガ風ゴシック様式。1815年に教会の塔が雷に打たれ火事になってしまったため、1817年に上部分だけが新しく作り替えられました。その際に修繕に使った木が歪んできて、今でも塔の先端が曲がっているのが見えます。

### ●ライン川遊歩道

全長2kmの長さで、目の前に広がるライン川の悠々たる流れ、対岸のオーバーカッセル地区を飾るユーゲント様式の街並みは誰もが思わず足を止める美しさです。

### ●ライントワー(Rheinturm)

遊歩道を上流の方に歩いていくとあるのがライントワー。州議会(Landtag)に隣接する高さ234mの電波塔で、360度のパノラマ展望台(168m)と、展望レストラン(172m。一時間で一周する)があり、市街地や田園風景が見渡せます。夜になると塔柱に灯る照明は、世界最大の10進法時計になっています。

### (3)ベンラート城(Schloss Benrath)

デュッセルドルフから南に足を延ばすとあるのが選帝侯カール・デオドルの命を受け、建築家ニコラス・デ・ピカージュの設計したベンラート城。ポツダムのサンスーシ宮殿よりも大きく、ヨーロッパで第一級の建築芸術として知られています。今から200年以上前にテオドル公の狩猟用別邸、夏の離宮として建てられたこの城は、第二次世界大戦後、多くの費用をかけて見事に修復されました。

ベンラート城(Schloss Benrath)

Benrather Schloßallee 100-106, 40597      Tel: 0211-8993-832

#### \* ベンラート城でのコンサート

ヴァンデルコンサート(Wandelkonzert)は年に4回、ベンラート城内で催されるコンサートです。オーケストラ(Neue Düsseldorfer Hofmusik)が主に古代、中世音楽を城の中で場所を変えながら演奏をします。

また、野外コンサート(Open-Air-Konzert Musikfestival)も行われています。これは、1994年からKlassik Konzertgesellschaft Düsseldorf主催により毎年夏に城の庭園で行われるコンサートで、音楽に合わせてイルミネーションや噴水が様々に変化したり、花火が行われたり、集まった観客を魅了します。椅子席だけでなく、芝生の上に自分で椅子や食事等を持ち込むことが出来る、ピクニック席もあり人気です。

チケット : Museumshop Schloß Benrath      Tel: 0211-8993-832

#### (4) 美術館・博物館

##### ●ゲーテ博物館 (Goethe Museum)

Schloß Jägerhof, Jacobistr. 2, 40211      Tel: 0211-8996-262

火～金・日 11:00～17:00 / 土 13:00～17:00

イエーガーホフ内にあり、ゲーテにまつわる約三万点に及ぶ資料が集められています。「ファウスト」の自筆原稿をはじめ、自筆の手紙、原稿、ゲーテと親交のあった人達の肖像画など、豊富な資料が陳列されています。フランクフルト、ワイマールに並ぶゲーテの博物館です。日本語解説書有。

##### ●ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館 (Kunstsammlung NRW-K20)

Grabbepplatz 5, 40213      Tel: 0211-838-204

火～金 10.00～18.00 / 土、日、祝日 11.00～18.00 (毎月第一水曜日は22:00まで)

K-20とは、Kunst(20世紀の芸術)という意味を成しており、20世紀美術の重要な芸術家の代表する作品が展示されています。1930年～33年にデュッセルドルフ美術大学の教授であったパウル・クレーの作品も充実しています。

##### ●ノルトライン=ウェストファーレン州立美術館 (Kunstsammlung NRW-K21)

Ständehausstraße 1, 40217      Tel: 0211-838-204

火～金 10.00～18.00 / 土、日、祝日 11.00～18.00 (毎月第一水曜日は22:00まで)

2002年4月18日に当時の連邦大統領のヨハネス・ラウ(1978年～1998年の間、ノルトライン・ウェストファーレン州の州首相であった)により落成式が行われたK21には、20世紀後半そして21世紀の芸術作品が展示されています。

##### ●市立美術館 (Museum Kunstpalast)

Ehrenhof 4-5, 40479      Tel: 0211-8990-200

火・水・金～日 11.00～18.00 / 木 11.00～21.00

1846年に創設されたライン地方でも最も内容の充実した美術館。中世ルネッサンス期からドイツロマン派、ドイツ表現主義、現代芸術に至るヨーロッパ絵画や彫刻が楽しめます。グラスやグラフィックの収集も充実しています。

##### ●ヘッチェンス博物館〈ドイツ陶芸博物館〉 (Hetjens Museum 〈Deutsches Keramik Museum〉)

Schulstr. 4, 40213      Tel: 0211-8994-210

火・木～日 11:00～17:00 / 水 11:00～21:00

古代ギリシャ・ローマから南西アジア、東南アジア、中世ヨーロッパに及ぶ貴重な陶器が約1万点集められています。古代から現代に至るまでの陶芸品の移り変わりを見ることが出来、ドイツにおける唯一の陶芸専門博物館です。日本語解説書有。

### 3. デュッセルドルフの催物・伝統行事

デュッセルドルフでは多くの伝統的なお祭りが開催されています。ライン地方の陽気な気質のドイツ人と盛り上がりながら飲むビールはおいしいものです。

#### ●カーニバル

11月11日11時11分、カーニバルの精「ホッペディッツ」が目を覚まし、カーニバル開始を宣言します。地元の政情をこきおろし、揶揄、痛撃するその巧みな演説には、周りの聴衆から思わず拍手喝采が沸き起こります。300以上のパーティー、仮装舞踏会の大騒ぎの後、2月には路上パレードが行われ、カーニバルはクライマックスを迎えます。

女性が主役の「ヴァイバー・ファストナハト」の木曜日には仮装した女性達が市庁舎を占領し、街のお祭り気分は一気に盛り上がります。カーニバルの頂点、「薔薇の月曜日」(Rosenmontag)は数キロに及ぶ仮装行列が延々と続き、それぞれに趣向をこらした奇抜な山車、楽隊、歩兵隊が市内を練り歩き、100万人に上る市民や見物客の輪が、パレードと一体になり、春の訪れを待つ冬空に大きな歓声を上げます。

#### ●キルメス(移動遊園地)

夏の名物は、市内各市で開かれるシュッツェン・フェスト(Schützenfest)「射撃祭」。その中でも特筆すべきは、1316年の創立の聖セバスティアヌス射撃協会が毎年7月に行う射撃祭で、旧市街の大パレードが特に見ものです。この射撃祭の縁日に由来し、大きく発展したのがデュッセルドルフ夏の風物詩、「ライン河畔最大のキルメス」です。

最新のジェットコースター、昔懐かしいメリーゴーランド、仮設テントのビアホールで開かれるジャズやロックのミニコンサート、夏の夜空を飾る花火大会・・・キルメスには9日間に渡り、毎年400万人以上の人々が訪れます。

### 4. 日本人コミュニティー

#### ●デュッセルドルフ日本人学校(Japanische Internationale Schule)

Niederkasseler Kirchweg 38, 40547      Tel: 0211 - 55770

デュッセルドルフ日本人学校は、ライン川西岸に広がる閑静な住宅街であり、市内で最も多くの日本人が居住するオーバーカッセル地区にあります。同校は、1971年4月、児童・生徒数43名で開校後、在留企業の増加を背景として、急激にその在籍数を増やし、最大時で998名(1992年)に達しました。現在でも小1～中3で529名(2012年5月現在)とヨーロッパ地域最大の日本人学校であり、「豊かな心と確かな学力を身につけ、国際社会で活躍できる子供たちの育成」をモットーに、良質な教育が行われています。

#### ●デュッセルドルフ日本商工会議所 (Japanische Industrie- und Handelskammer)

Immermannstr. 45C, 40210      Tel: 0211-630760

デュッセルドルフ日本商工会議所は、会員企業向けサービスと日独経済関係発展を目的として1966年に設立された社団法人です。会員企業向けの情報提供として、会報(毎月)の発行や講演会・セミナーを開催しています。また、日独関係諸機関と意見交換を行ったり、共催行事を行うなど日本企業とドイツ社会との関係上、重要な役割を果たしています。2012年1月現在の会員数は533社(正会員:270社、特別会員:263社)です。

●**デュッセルドルフ日本クラブ (Japanischer Club Düsseldorf e. V.)**

Oststr, 86, 40210      Tel: 0211-1792060

開館時間: 月～土 10:00～19:00

デュッセルドルフ日本クラブは、日独友好・地元社会への貢献と会員間の親睦・互助を目的として1964年に設立された社団法人です。日独交流行事の開催、ソフトボール大会・バスツアー等各種行事の企画・実施、会報(隔月)の発行等を通じた生活情報の発信などを行っています。コーラス、箏曲等のサークル活動も盛んで、図書館では図書貸し出しサービスも行ってあります。法人会員247社、個人会員4019名。(2012年11月現在)

●**日本デー**

デュッセルドルフでは、デュッセルドルフ市、ノルトライン=ヴェストファーレン州、当地日本人コミュニティ(上記3団体)が資金を出し合い、日本の文化を大々的に紹介する「日本デー」を開催しています。「日本デー」では、日本食レストランのテント、生け花、書道等の文化紹介用のテントが設置されます。ここでは、欧州で唯一日本製の花火が見られます。

5. **エンターテイメント**

芸術の街としても知られるデュッセルドルフ。市内には一流の歌劇場、ドイチェ・オーパー・アム・ラインを始め、バラエティー、ミュージカル、前衛的な演劇を展開する様々な劇場があります。また、クラシック音楽を楽しめるコンサートホール(トーンハレ)もあります。さらに、ジャズラリー、ロベルト・シューマン・フェスティバル、アルトシュタットのオータム・フェスティバルなど、毎年、多くの音楽祭が開催されています。

●**オペラ座 (Deutsche Oper am Rhein)**

Heinrich-Heine-Allee 16a, 40213      Tel: 0211- 89080

公演日: ほぼ毎日(但し、7月中旬～9月中旬まではオフシーズン)

●**トーンハレ (Tonhalle)**

Am Ehrenhof 1, 40479      Tel: 0211-8996-123(電話予約)

●**市内観光バス (市内及びラインタワーの観光(約2時間)、ドイツ語・英語)**

デュッセルドルフ中央駅市内観光バス乗り場 11:00 / 13:00 / 15:00

Königsallee、Steinstr.交差点発 11:10 / 13:10 / 15:10

※詳細はHopOn HopOff CityTourのHPでご確認ください。

●**ドイツサッカー観戦**

ノルトラインヴェストファーレン州にはブンデスリーガ(ドイツプロサッカー1部リーグ)に所属するクラブが多数あります。デュッセルドルフにも1895年からの歴史があるフォルトナ・デュッセルドルフというチームがあります。2012年からは15年ぶりにブンデスリーガ1部に昇格し、地元で試合のある日は盛り上がります。

シーズンは8月中旬から冬季の休止期間をはさんで翌年5月までとなっており、試合は原則として土曜の午後と、日曜の夕方に行われ、チケットは各チームによって販売方法は異なりますが、ほとんどのチームの公式サイトからオンラインで購入出来ます。

(※ブンデスリーガ:1963年発足のドイツのプロサッカーリーグの事で、ヨーロッパで最も人気の高いサッカーリーグの一つ。1部、2部それぞれ18クラブが所属しています。)

## 6. 近郊都市

### ●ネアンデルタール(*Neandertal*)

ネアンデルタール博物館 (*Neandertal Museum*)

Talstr. 300, 40822 Mettmann      Tel: 02104-97970

火～日 10:00～18:00

デュッセルドルフ市より東に28kmのところにある溪谷。この地の洞窟で1856年の石炭採掘の際にネアンデルタール人(紀元前20万年前ないし4万年)の骨が発見されました。原始人時代から現在に至る人間の生活と文化を伝える博物館です。

### ●ツォンス(*Zons*)

ライン下流域において原型をとどめる唯一の要塞都市。中世ラインラントの典型的な築城様式(長方形の4隅に望楼を配置し、城壁の周囲に水堀をめぐらす)を取り入れ、1275年に着工、14世紀に完成しています。春から秋にかけては、地元民による野外小劇場での公演が行われます。

### ●ノイス(*Neuss*)

ドイツにおける最も古い都市の一つであり、ローマ帝国のライン川西岸における防衛拠点(紀元前56年～紀元後55年頃)として発達し、以後ハンザ同盟の一員として貿易の中継点となった都市。市の南側は、かつてのローマ時代の兵営地であり、9世紀に建てられた聖クイリヌス寺院(*Quirinus Dom*)は3つの通廊を持ち、ライン川流域で最も美しい寺院の一つと言われています。